

提案趣旨説明書

<作品タイトル>

Re: MAKOMANAI -未来を見据えた多世代共生型の住宅都市への更新-

<提案の趣旨>

1. 真駒内地域の現状と課題

・人口減少と少子高齢化の進行

真駒内地域の人口は1985年から減少傾向にあり、少子高齢化の進行も懸念される。よって、地域の発展を考える上で、大規模団地住民の高齢化への対応策は欠かせない。

・駅周辺施設の老朽化

地下鉄真駒内駅前にある市有施設や、駅を周辺の住宅団地のほとんどが、築40年を越えており、更新時期を迎えている。そこで、計画されている駅前空間の再編と併せて、新たな人口の流入を促すための新たな団地のかたちを考える必要がある。

2. 提案

真駒内地域の現状と課題を鑑みると、将来的に地域の衰退が懸念される。そこで、「①医療・福祉機能の集約、②子育て世代の呼び込み、③駅前空間の再編」の3つの構想を掲げ、これまでの郊外住宅都市から、多世代共生型の住宅都市へと更新を図る。

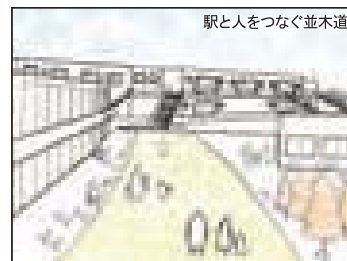
①来たる高齢化社会に向けて - 医療・福祉機能の集約 -

商業施設や郵便局といった生活拠点を活かしながら、旧真駒内小学校の周辺を、医療・保健・福祉・介護に関する機能が集約・連携しながら地域住民の健康を支える医療・福祉拠点として整備する。隣接する道営住宅（団地）は、高齢者向け住宅として建て替え、医療・福祉拠点へ徒歩でシームレスにアクセスすることができる。



②真駒内地域の発展を目指して - 子育て世代の呼び込み -

老朽化の進んだ駅前団地を、通勤・通園に便利かつ安全な「子育てしやすい団地」に整備し直し、若い世代の生活を想定した住みやすいまちをつくる。いままでの団地のイメージを払拭し、子育て世代の流入・定着をうながすことで、多世代が暮らす活気にあふれたまちとなる。



③南区の拠点として - 駅前空間の再編 -

真駒内駅前の土地利用再編案に基づいて施設を配置すると共に、散在する交通機能の整理による利便性・安全性の向上に加え、区役所や区民センターなどの生活拠点施設の集約、そして人々が集まる機能を新たに設ける事で、多世代の人々が集まる滞留・交流型の駅前空間を創出し、にぎわうまちへと再編する。



このようにして、生活基盤整備・住宅整備を完了し新たな住民は定着する。人口変動が緩やかになり、真駒内地域は多世代共生型の住宅都市へと生まれ変わる。子供は元気よく育ち、大人は安心して子を産み育て、高齢者は楽しく余生を過ごす。これから真駒内地域は人々が豊かな生涯を過ごすことができる街へと更新し続ける。